

創立第四十六年（昭和十九年）

一 聯隊長ノ異動 ナシ

二 戦闘經過ノ概要

東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセントスル米英膺懲ノ劍ヲ執リテ
早第三ノ新春ヲ海峡制扼ノ堅陣中ニ迎フ
大詔ヲ奉ジテノ我カ陸海堂々ノ作戰ニモ懲リズシテ敵ハ宏
大ナル領土ト豊富ナル物量ヲ恃ミ暴戾飽クナキ反抗ヲ續
ケ、アツツ、マキン、タラワ島ノ將兵ハ遂ニ相次イデ萬斛ハ
淡ヲ吞ミテ玉碎スルニ至レリ、又信義ナキイタリアバドリオ
政府ハ九月九日國ヲ賣リテ無條件降伏ノ醜事ヲ敢テシ
東西ノ戦局ハ愈々多事多難ヲ思ハシムルモノアリ
我カ近海ニ於ケル敵潛ノ跳梁又ハ大陸及海上ヨリスル敵機ノ
來襲モ漸ク繁カラントス

茲ニ部隊ハ諸般ノ施策ニ依リ益々教育内務ノ振作ヲ見、
彌々志氣ヲ鼓舞シ訓練ヲ重テ堅忍持久凡ユル困難ヲ
制シテ一發必中折言ツテ任務ノ達成ヲ期シ必勝撃滅ノ
新年ヲ迎フ

一月十一日本日ヨリ十六日ニ至ル間部隊ニ於テ新内務令及新内務規
定ノ普及教育ヲ實施ス

監督官 部隊長 教官 大尉 懺川 準三

專習員 各大(中)隊砲臺ヨリ部隊長ノ指命スル將校ノ
外司令部、聯本陸病各關係將校

一月十七日 部隊長ハ野砲砲臺ノ任務上之カ陣地變換ノ必要アルヲ
認メ小松崎(第五中隊)ニ至リテ地理實査ヲナシ新陣
地ノ位置ヲ確定シ同日歸隊ス

又同様ノ目的ヲ以テ十九日折瀬鼻砲臺ニ至リテ新陣

地ノ位置ヲ確定シ同日歸隊ス

兩日共高木中尉隨行ス

一月二十日 部隊長ハ野砲砲臺陣地變換ノ必要アルヲ認メ本朝白

崎砲臺ニ出張シ新陣地ノ位置ヲ確定シ同日歸隊ス

高木中尉隨行ス

一月二十九日 志氣昂揚ノ目的ヲ以テスル本年度第一次劍術大會ヲ

部隊本部ニ於テ實施ス

司令部、聯本地區隊本部、各砲臺ヨリ劍術二名銃

劍術三名宛選手ヲ出場セシメタリ

各隊對抗試合ニ於テハ部隊本部優勝シ龍ヶ崎砲臺

二位、御崎砲臺第三位ニ入賞セリ

個人試合ニ於テハ中尉中尾三郎(三中隊)次位樋口伍

長(二本)三位松田少尉(七中隊)各、入賞セリ

三三
三三

二月十日大東亞戰爭三度迎フル紀元ノ佳節此ノ日大東亞
 戦争ノ前途ニ瑞兆ヲナセルモノナルカ天ニ一盞ノ雲ナク
 誠ニ快晴ノ佳キ日ナリ 部隊將兵ハ口九三口御眞影
 ヲ奉拜シ盡忠ノ至誠ヲ固メ大君ノ馬前ニ股肱アルノ
 本分ヲ誓ヒ殉忠報國ノ念ヲ鞏固ナラシメタリ

二月十日第二大隊長トシテ精勵シアリタル中佐樋口良彦ハ中
 城灣要塞重砲兵聯隊長ニ補セラル

又同時日部隊附タリシ大尉井本メ男ハ大隊長ニ
 補セラレ第三大隊長ヲ命セラル

二月十日米ノ反攻愈々猛烈ヲ極メ南溟ノ地我カ領土トラツク島
 ニ侵攻シ來レリ

三月十日正丸ハ對馬北端ニ於テ敵潛ヲシキモノノ雷撃ニヨリテ損
 害ヲ受ク 依ツテ全地區ハ時ヲ移サズ戰鬥姿勢ニ移行

シ至嚴ナル警戒ヲ續行スルモ長蛇ハ遂ニ出現セス將兵
一段ノ緊張ヲ以テ鐵壁ノ警戒ヲ續行ス

三月十日 當部隊動員以來（昭一六、七、二一）御眞影ヲ部隊内務衛
兵所ニ奉安セラレアリタルモ新内務令ノ精神ニ基キ部
隊長室ニ奉安シ奉ルフトナル之カ爲新ヲシク奉安
殿ノ謹作ニ着手シ其設計ハ部隊將兵ヨリ募集ス
當選者左ノ如シ

設計者 陸軍一等兵 小林 通人

指物師 陸軍一等兵 浜野 秀男

六月十五日 四月入隊補充兵配屬ニ依リ陸軍曹長今泉勲以下
二〇名召集ヲ解除ス

總テ動員戰備以來戰力強化ニ邁進シ來レル者ヲモテ
使命ヲ果シテ總力決戰ノ職域ニ就カシメタリ

六月十六日 一七〇〇突如敵機來襲、爲警戒報發令セラレタリ
依ツテ部隊ハ直チニ既定ノ警戒戒次セ勢、編成ニ基ク
配置ニ就ク 同日〇一〇〇空襲警戒報發令セラレ敵機
ニ對スル準備ニ遺憾ナカラシメ敵機ヲ待期ニアリタリ
然レ共敵機對馬西端ヲ通過セルモ遂ニ射程ナク切齒
扼腕スルモ及バズ將兵慟哭ス
然レ共我が上空ヲ通過セル敵機ハ小倉附近ニ於テ相當
數撃墜セラレタリ

七月九日 本日ヨリ十六日ニ至ル間部隊長第二期教育檢閲、爲
北地區及中地區ニ出張セリ

七月十日 之ヨリ二十日ニ至ル間部隊長第二期檢閲、爲南地區へ
出張ス

七月二十七日 軍司令官初度巡視ヲ實施セラレ本部、郷崎砲臺及

豆酸砲臺ヲ巡視セラル

又同時ニ軍兵器部長ノ當要塞ニ於ケル兵器検査
ヲ實施サレ

七月二十九日 三〇〇敬言戒敬言報ニ引續キ五分ヲ措キテ空襲敬言報
ヲ發令セラル 敵機ハ B24 B29 ヨリ成ル新編隊ナリ

小倉、長崎、要地ヲ襲フ目的ヲ以テ來襲セルモノ、如
キナルモ其ノ目的ヲ達シ得ズ遁走ス

八月九日 本日ヨリ二十日ニ至ル間西部軍内要塞砲臺長(10K 15K 88)ノ
集合教育ヲ小松崎砲臺ニ於テ實施ス專習員十六
名ナリ

八月二十七日ヨリ 40K 砲塔及野砲ノ實施射ヲ行フ

九月十日 昭和十九年徵集現役兵五二名入隊ス

十月二十日 二二三對潜水戰

口八四五豆酸砲臺西北方ニヨロヨロ米附近ヲ南下中ノ我が
貨物船ニ隻中先頭貨物船爆發沈没ニ瀕シアルヲ發
見、直ニ郷崎、小松崎、豆酸砲臺ハ獨斷戰鬥姿勢
ニ移行シ嚴戒中他ノ貨物船ヨリ射撃ヲ開始セルヲ認
メタルヲ以テ郷崎砲臺長竹下大尉ハ同船ヲ掩護スル爲
直ニ其ノ彈着點ニケ所ニ對シ相次テ小銃彈十四發
ヲ射撃、敵潛ヲ制壓シ同船ハ無事豆酸ニ避泊セシ
メタリ

本戰鬥ハ我が聯隊ガ耐寒、冒暑、日夜百鍊ノ武
技ヲ以テ戰備ニ就キ脾肉ノ嘆ニ堪ヘザリシモノノ
第一回ノ戰鬥ニシテ其ノ性質上戰果不明ナレドモ
貨物船掩護ノ目的ヲ達成シタルモノニシテ竹下大尉、
處置ニハ要塞司令官之ヲ機宜ニ適スルモノトシ聯隊

長亦深ク之ヲ賞セリ

三月一日 新教育年度ニ入り現下ノ戦況ニ鑑ミ更ニ戦訓ニ基ク重點教育ヲ實施シテ聯隊ノ使命遂行ニ遺憾ナキヲ期ス

九月入隊現役兵教育終了シタルヲ以テ本日ヨリ三日間檢閲實施

新銳五百有三名必勝ノ意氣ヲ紅顔ノ眉宇ニ湛エテ聯隊ノ戦力更ニ増強セラレ五日三五六名(幹候、下候要員ヲ除ク)各隊ニ配屬ス

十月七日 昭和二十年度第一次採用幹部候補生教官ニ黒岩正彦中尉、昭和十八年度採用下士官候補者教官ニ黒岩若雄中尉並ニ龍造寺准尉ヲ命シ教育陣容ヲ整正フ

十二月十日 初年兵配屬ニ依リ曹長村岡鉄次以下二五五名

召集解除又總テ動員當初以來戰備強化ニ邁進

シ來レル者ニシテ使命ヲ果シテ今日故山ニ歸ル

欣慶ノ至リナリト雖モ亦轉々感慨ナキ能ハズ

本日ヨリ聯隊長砲兵團隊長集合教育參加ノ爲

小倉西部第七一部隊ニ出張(八泊、豫定)引續キ

十六日ヨリ壹岐要塞司令部ニ於ケル要塞砲兵聯大

隊長集合教育(野口、古賀兩少佐ト共ニ參加ス

日六三日海栗島防備衛所方向二六日度一四日附近ニ

異音ヲ聽取セルヲ以テ北地區各隊ハ戰鬪姿勢ニ移行ス

ルモ其ノ後異狀ナク一六日警言急々勢乙ニ復ス

十月十音 昭和十八年度採用二年度下士官候補者教官黒

岩若雄中尉ヲ免シ白水三都彦中尉ヲシテ之ニ

當ラシム

十二月二十日 要塞重砲兵聯大、中隊長巡回教育ヲ本日ヨリ
要塞司令官統裁ノ下重砲兵學校教官谷川少
佐、川島大尉來隊、聯隊長以下大、中隊長十六
名參加、御崎、小松崎、龍之崎、豆酸各砲臺ニテ
二十九日迄實施サル

十二月三日 驕敵ノ反攻ハ年ヲ通ジテ益々熾烈ヲ加ヘ必勝ノ策
我ニアルハ論ヲ俟タザル所ナルモサイパン、大宮、テニヤン
等ノ各守備部隊が大平洋ノ孤島ヲ悲憤ノ鮮血ニ
染メタルガ如キ痛恨事アリ又臺灣沖、比島沖等ニ
於ケル大戦果ハ敵機動部隊ニ致命的打撃ヲ與ヘ
タリトハ雖モ物量ヲ恃ム敵ハ未タ懲リズシテ更ニ比律賓
レイテ、ミンドロ島ニ上陸シ我ガ南方ノ重要線ヲ侵犯スル
ニ至リ同島周辺ノ戦鬪ハ益々凄絶苛烈ヲ加フ

要塞ニアリテモ本年中敵潛出沒、微ヲ認メテ次々勢力ヲ變更セシト屢々ニシテ警告報、爲對空戰鬥、配備ニ就キタルコトモ漸ク頻繁トナリ船團航行掩護爲ニ次々勢力ヲ變更シタルニ至リテハ殆ト毎週或ハ連日ニ及ビ郷崎砲臺ハ遂ニ戰備以來光榮ナル第一彈ヲ發スルニ至レリ

斯ル狀勢下聯隊、使命モ旧來ノ觀念ニ基ク海峽要塞タルニ止ラズ眞ニ皇土護持ノ緊迫セル重任ヲ課セラレ、ニ至レリ

サレバ全軍ノ防衛作戰計畫ニ基キソノ一翼トシテ九月以來各砲臺共陣地教化作業ヲ命ゼラレ各種洞窟陣地ヲ設ケ凡スル事能ニ對處シテ毅然トシテ戰鬥ヲ續行スヘキ鉄壁ノ要塞化ヲ計リ聯隊長

自ラ各砲臺ヲ巡視シテ工事ヲ指導シ聯隊本部ニ
在リテハ高嶺東方六ノ三高地ヲ中心ニ對空對海岸
射撃ノ爲堅固ナル陣地構築ヲ實施シ將校以下全
員ノ流汗奮闘ニ依リ殆ト完成ニ近ツクニ至レリ
八紘山機關銃陣地亦強化シ今ヤ全島旧貌ヲ一變
シテ戰訓ニ基ク強カ要塞ト化セリ
茲ニ驕敵撃滅隱忍多事ノ一年ヲ送ルニ際シ上下一
心聖諭大詔ノ深旨ヲ奉戴躬行シ旺盛ナル志氣ヲ
以テ任務完遂ノ一途ニ邁進セムフトヲ期シ皇紀
二千六百五年ヲ迎ヘントス

昭和十九年度將校准士官轉出入一覽表

轉出

昭 和 十 九 年 度	發 令 日 摘 要	階 級	氏 名	昭 和 十 九 年 度	召 解	階 級	氏 名
昭三〇 一〇	陸軍航空通信 學校へ	大尉	瀨戸山哲夫	四三〇	防空二十一 聯隊へ	少尉	瀨村修三
二一〇	對馬要塞 司令部へ	少尉	山口八郎	〃	同	少尉	武田重矩
二一二	補中成務要 塞重砲兵聯隊長	中佐	樋口良彦	五一	召解	中尉	脇谷鉄夫
二一四	召	解中尉	堤廣一	〃	同	中尉	橋本良市
〃	同	中尉	安藤新	五二七	獨立高射砲隊 四十一大隊へ	少尉	濱田治平
〃	同	中尉	梶原繁治	〃	防空隊 四十一聯隊へ	中尉	久本幸吉
三〇	同	大尉	前原勝	八一五	陸軍重砲兵 學校へ	見士	横山力雄
四一五	鷓知陸軍病 院へ	少尉	森岡讓	九一四	對馬要塞 司令部へ	少尉	小田進
〃	召	解大尉	緒方九洲男	九二六	小倉陸軍兵器 補給廠へ	技術 少尉	奥野宏
〃	召	解大尉	廣瀨茂俊	九二八	下関重砲兵聯 隊補充隊へ	准尉	平井久

					昭一九 九、一四 兵器學校ヨリ 見 技術部 小林 田二男
				九、一九 對馬要塞 司令部ヨリ 准 尉 龍造寺官	
				〇、一 任陸軍准尉 准 尉 山一田 元	
			〇、一五 小倉陸軍病院 院ヨリ 見 衛生部 高島久雄		
			二二、一八 北支那經理部 教育部卒業 見 經理部 八坂 治		
			〇、〇〇 同 同 門 脇 裕		
			二二、二四 豫備役見習 士官ヲ命ス 見 士 金子 鷲男		

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

日本書紀

昭和十九年度末將校職員表 對馬要塞重砲兵聯隊

聯隊本部

聯隊長	重中佐	垣内八洲夫	第一大隊本部
副官	重中尉	川島末次郎	長
指揮班長	重大尉	高木三郎	副官
通信長	重中尉	白水三都彦	副官
附	重少尉	野口滿洲夫	通信長
同	重少尉	高峰義久	第二大隊本部
同	重中尉	原田清	長
同	經見士	中野敏雄	副官
同	醫大尉	古賀俊夫	觀測長
同	醫中尉	白濱仁吉	通信長
同	醫少尉	末吉之孝	第三大隊本部
			重少佐
			野口寬治
			野田喜徳
			正一
			佐藤勲夫
			古賀新作
			加悦良雄
			來山宮之
			久家謹治

同	同	同	同	同	同	同	附	長	第一中隊	通信長	副官	長
童見士	童少尉	童少尉	童少尉	童少尉	童中尉	童中尉	童中尉	童大尉	童少尉	童中尉	童少尉	童少佐
平井康一甲	木林 一正	成瀬 俊男	川橋博文	後藤保己	湯淺誠一	松浦榮次郎	黒岩惠吉	山田博	松田正雄	中村不二男	井本ノ男	
附	長	第四中隊	同	同	附	長	第三中隊	同	附	長	第二中隊	
童中尉	童大尉	童少尉	童少尉	童少尉	童中尉	野山大尉	童少尉	童少尉	童中尉	野童大尉	童中尉	童大尉
黒岩若雄	竹下和作	酒井菊二	調 喜代	增田一雄	飛永時穂	吉田 薫	山口新一	中尾三郎	木林 一夫			

同	童少尉	平岡謙三〇	長	童大尉	熈川準三特
	同	塩脇彦藏〇	附	童中尉	寺本匡護〇
第五中隊					
長	野童大尉	藤野唯雄〇	同	童少尉	小野原善一〇
附	童中尉	柰原俊市〇	同	童少尉	新池一人 57
同	童少尉	野村正徳〇	同	童少尉	山崎達夫〇
同	童少尉	堀木敏夫〇	同	童少尉	川添國房〇
第六中隊					
長	野童大尉	大串春彦〇	同	童少尉	眞子茂人〇
附	童中尉	村上末雄〇	同	童少尉	若杉健太郎〇
同	童中尉	篠崎一義〇	同	童見士	大里哲夫甲
同	童少尉	鷲崎透〇	第八中隊		
第七中隊					
長	野童大尉	藤本實〇			

227

附	重中尉	黒岩正彦 <small>特18</small>	重見士	岡田	功甲
同	重少尉	平田勝雅○	重見士	金森孝俊	甲
同	重少尉	岸川憲三 <small>特18</small>	重見士	深松義一	甲
第九中隊			重見士	金子鶴男○	
長	重中尉	佐脇宇之吉○	重見士	加納俊夫	甲
附	重中尉	岩崎多圓○	重見士	江島九良夫	甲
同	重少尉	内藤満徳○	重見士	西澤博造	甲
同	重少尉	本多勇○	重見士	吉村	整甲
定員外			重見士	西	正敏甲
	重少尉	宮崎登○	重見士	草場哲夫	甲
	重見士	本田三郎○	醫中尉	花岡正巳○	
	重見士	宮川勉甲	經見士	八坂	治甲
	重見士	井山助俊甲	經見士	門脇	裕甲

圖 冊